

## 編集後記

ここに『言語と文化論集』第14号が上梓されました。編集委員としては、将来性の豊かに恵まれている大学院生のお手伝いをするのは大きな喜びです。学究として本格的に書き出した最初の論文を世に出すお手伝いをするのですから嬉しい役割です。それぞれの投稿者はそれぞれの指導教授からの厚き薫陶を十分に受けて完成作品を提出してくれました。これからも、年一回発行されるこの専門誌への投稿を目標に、じっくりと腰を据え、より本格的なものを目指して執筆してほしいと思います。そして、その論文執筆が真摯な学究としての第一歩のきっかけになってくれればと願います。

喜ばしいことに、今回は、中国語学科の松村文芳教授との共同研究のために渡来された中国人の学究である劉海燕先生が投稿してくれました。このような執筆参加は大歓迎です。これからも東西の知的交流の具体的な形を小誌にどんどん掲載していただくように願います。また、嬉しいことに、英語言語学の分野を専攻する博士課程後期の院生がイギリスのリーズ大学で本格的な知的訓練を積んで、取得したMA論文の一部を投稿してくれました。このような生きのいい若い学究がこれからも、どしどし活躍してくれることを望んでやみません。

編集委員 橋本 侃（神奈川大学大学院外国語学部研究科教授）

## 投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を終了した後の2年間は投稿できるものとする。
2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
3. 完全原稿を提出のこと。

(1) 長さは、日本語・中国語の場合は2万字程度、その他の言語の場合は、A4版（横68字、縦25行）で30枚程度とする。

(2) 原稿には英文の標題をつけ、ローマ字表記の氏名を明示する。

(例)

Verbal Irony and Echoic Use     KANAGAWA Tarou

The phonological system of Hun mong ja hoe     KANAGAWA Hanako

(3) 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外の加筆・削除は認めない。

(4) 提出するフロッピーディスクに、氏名・住所・電話（ファックス/Eメール）番号と、専攻（課程：修了年次・在学年次）、論文標題、使用ソフト名を記した一覧表を別文書として製作し、ハードコピー（1部）と共に提出のこと。ワープロの場合は、機種名・版数などを明記のこと。

(例)

神奈川太郎     神奈川大学大学院英語英文学専攻博士前期課程2年

神奈川花子     神奈川大学大学院中国言語文化専攻博士後期課程修了

4. 締め切り：10月31日

（執筆予定者は夏期休暇以前に編集委員に提出論文の概要と、予定字数を予告すること。）

**神奈川大学大学院**  
**言語と文化論集 第14号**

2008年2月 印刷

2008年2月 発行

編集発行 神奈川大学大学院  
外国語学研究所  
(横浜市神奈川区六角橋3-27-1)

製作 株式会社 野毛印刷社